

観光社会資本の事例

テーマ	海辺のプロムナード「カモメの散歩道」による「人と海との関係性」の回復
[施設の状況写真]   「カモメの散歩道」は、気軽に海に親しめるスポット ベンチも備え付けられたウッドデッキのプロムナード	
[施設の利用写真]   鳥羽駅から周辺の水族館や博物館へ向かう多くの観光客の方々が、カモメの散歩道から海に親しんでいる。 ベンチの一方を跳ね上げることで、健常者と車いすの方が同じ視点で海を眺められるようバリアフリーにも配慮されている。	
[観光資源としての利用状況] カモメの散歩道は、それまで気軽に海に近付いて親しむ場所が不足していた鳥羽に、新しく海を身近に感じられるスポットとして2005年4月に誕生しました。温かみのあるウッドデッキのプロムナードは、鳥羽駅周辺の観光施設を訪れる観光客はもとより地域住民にとっても、海を間近に感じて癒されリフレッシュできる空間として親しまれており、鳥羽での楽しみ方の可能性を広げています。 「鳥羽みなとまつり」では、絶好の花火観覧スポットとしても多くの方に利用されています。 [鳥羽駅周辺の主要観光施設の入込客数] 平成16年 1,173,074人 また、伊勢志摩地域への障害者・高齢者の入込客数の増加を見据えて、カモメの散歩道はウッドデッキへのスロープや跳ね上げ式のベンチなど、ユニバーサルデザインに配慮された設計がなされており、バリアフリー観光の先進地である伊勢志摩における象徴的なスポットとなっています。 [伊勢志摩地域への障害者・高齢者入込客数] 平成12年 30,546人 → 平成16年 40,563人 (NPO 法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンター調べ)	

テーマ	海辺のプロムナード「カモメの散歩道」による「人と海との関係性」の回復	
[社会資本の基礎データ]		
○名称	カモメの散歩道	
○所在地	三重県鳥羽市	
○事業名	観光地景観形成マネジメント事業	
○事業主体	三重県	
○事業期間	H13～H17	
[社会資本の役割・効果]		
鳥羽市中心市街地に隣接する鳥羽港岩崎地区海岸高潮対策事業に伴う後背地の遊歩道整備計画である。従来の行政主導型ではなく、住民により構成される団体（とばベクトル会議）を中心に、地元企業や行政との協働により多角的な視点で検討が進められた。中心市街地のまちづくり全体を視野に入れ、海・城山など今も昔も変わりなく存在する鳥羽の財産を引き立てることで地域の魅力を体感できる施設とすることを目指し、その中でも、近年の開発により失われてしまった「人と海との関係性」を回復することに主眼を置いた。 また、整備後の維持管理体制などについても議論され、地域住民も施設の維持管理に参画することになり、新しい住民参画のあり方を提示することとなった。建築・環境デザイン部門の2005年度グッドデザイン賞を受賞。		
[位置図]		
		
[関連ホームページ]		
	鳥羽市観光情報サイト	http://www.city.toba.mie.jp/kanko/
	鳥羽商工会議所 HP	http://www.toba.or.jp